Noh
OHTSUKI NOH THEATRE

令和六年度 大槻能楽堂自主公演能

特別公演

新春能

令和7年
1月3日（金）
開演時間 14時

翁
観世 淳夫
茂山 逸平

狂言 松楪
茂山千五郎

能 春日龍神
龍女之舞
浅井 文義

令和7年
1月4日（土）
開演時間 14時

翁
大槻 文藏
野村 裕基

狂言 酢薑
野村 万作
野村 萬斎

能 二人静
立出之一声
観世銕之丞
片山九郎右衛門

大槻能楽堂

主催：公益財団法人大槻能楽堂

助成：大阪市助成
文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
｜独立行政法人日本芸術文化振興会

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】noh-kyogen.com

公演パンフレット「おもて」
季刊発行（詞章・あらすじ等を掲載）
1冊:1000円（定価）

令和六年度 大槻能楽堂自主公演能

特別公演

新春能

13:30 開場

14:00 開演

第729回 令和7年1月3日(金)

翁

翁	観世 淳夫
三番三	茂山 逸平
千歳	大槻 裕一
面箱	茂山 虎真
笛	杉 信太朗
小鼓 頭取	大倉源次郎
脇鼓	大倉伶士郎
脇鼓	吉阪 倫平
大鼓	亀井 広忠
後見	観世銕之丞
	谷本 健吾
地謡	大槻 文藏
	多久島利之
	齊藤 信隆
	山本 章弘
	山本 正人
	梅若 基徳
	今村 哲朗
	山田 薫
狂言後見	鈴木 実
	茂山千之丞

休憩

狂言 松楪

津の国の百姓	茂山千五郎
丹波の国の百姓	茂山千之丞
奏者	茂山あきら
笛	杉 信太朗
小鼓	吉阪 一郎
大鼓	山本 寿弥
太鼓	中田 一葉
後見	山下 守之
	増田 浩紀

休憩

能 春日龍神 龍女之舞

前シテ 宮守 後シテ 龍神	浅井 文義
ツレ 宮守	齊藤 信輔
ツレ 龍神	浦田 保親
ツレ 龍女	寺澤 幸祐
ワキ 明恵上人	福王茂十郎
ワキツレ 従僧	喜多 雅人
ワキツレ 従僧	福王 知登
笛	貞光 智宣
小鼓	久田舜一郎
大鼓	山本 哲也
太鼓	中田 弘美
後見	上野 朝義
	赤松 禎友
	大西 礼久
地謡	片山九郎右衛門
	上田 拓司
	山本 博通
	上野 雄三
	大江 信行
	武富 康之
	水田 雄晤
	上野 雄介

(終演予定時刻 17時20分頃)

第730回 令和7年1月4日(土)

翁 子宝

翁	大槻 文藏
三番叟	野村 裕基
千歳	稲本 幹汰
面箱	中村 修一
笛	竹市 学
小鼓 頭取	幸 正佳
胴脇	曽和 鼓堂
手先	成田 奏
大鼓	河村 大
後見	梅若 猶義
	大槻 裕一
地謡	多久島利之
	齊藤 信隆
	上野 雄三
	山本 博通
	山本 正人
	齊藤 信輔
	水田 雄晤
	山田 薫
狂言後見	野村太一郎
	内藤 連

休憩

狂言 酢薑

酢売	野村 万作
薑売	野村 萬斎
後見	飯田 豪

休憩

能 二人静 立出之一声

前シテ 里人 後シテ 静御前の霊	観世銕之丞
ツレ 菜摘女	片山九郎右衛門
ワキ 勝手宮神主	福王 和幸
笛	斉藤 敦
小鼓	成田 達志
大鼓	亀井 広忠
後見	赤松 禎友
	観世 淳夫
	谷本 健吾
地謡	浅井 文義
	上田 拓司
	浦田 保親
	片山 伸吾
	寺澤 幸祐
	武富 康之
	井戸 良祐
	片山 峻佑

(終演予定時刻 17時25分頃)

両日とも「翁」開演から翁渡りが終わるまで
客席への出入りは出来ませんので、
お時間に余裕をもっておこしくださいませ。
開演5分前には着席のご協力をお願い致します。

《翁》

三丁の小鼓と大鼓が織成すリズムの高揚。千歳は颯爽と舞い、白い翁は厳かに天下泰平と国土安穏の祈りを捧げ、黒い翁は大地を踏み跳躍して五穀豊穣を願う。——

祭祀そのものと言われ、他の演目とは一線を画す様式を持つ。「能にして能にあらず」とも言われる特別な演目である《翁》。後見や地謡が、武家の正装たる長袴の素袍に侍烏帽子を付けた姿で居並ぶのも《翁》だけだ。

大槻能楽堂の名物である正月二日連続公演の《翁》。令和七年の幕開けを飾る翁は、まず一日目(3日)は、令和六年新春能で千歳を勤めた観世流分家嗣子・淳夫の大夫に、千歳は大槻裕一。三番三(大蔵流)は京都の茂山千五郎家から茂山逸平、面箱持は十四世千五郎の次男・虎真という顔合わせ。

二日目(4日)の大夫は大槻文藏(文化功労者・人間国宝)。千歳は大槻家の稲本幹汰が披く。野村萬斎の嗣子・裕基が勤める三番叟(和泉流)は、「子宝」の小書(特殊演出)が付いて、中村修一の勤める面箱持との問答が常の演出とは異なるのが珍しい。

毎年のことながら、囃子方も小鼓方大倉流十六世宗家・大倉源次郎(人間国宝)を始めとして、東西から名手から若手まで、大槻能楽堂ならではの豪華な顔ぶれだ。

狂言《松楪》

津の国の百姓が松を、丹波の国の百姓が楪(ゆずりは)を、年貢として納めに上京する途中で道連れになる。二人は、領主の館で取次ぎの奏者から、松と楪によそえた和歌を所望され、見事な和歌を詠んだ褒美に酒をふるまわれる。——

楪は新葉の生長後に旧葉が落ちるので、親から子への継承になぞらえて正月飾りに用いる。十四世茂山千五郎(津の百姓)に、茂山あきら(奏者)とその子息・二世千之丞(丹波の百姓)という千五郎家の面々による目出度い脇狂言。

能《春日龍神 龍女之舞》

明恵上人は、長年の夢であった天竺(インド)への旅を決意して、春日明神に暇乞いの参詣をする。すると、年老いた宮守が現れて上人を諭す。釈迦が入滅した後は春日山こそが釈迦が説法をした聖地・霊鷲山なのだから、明神の心に背いてまで天竺へ渡ることはない、と。上人が明神のご神託に感激していると、金色に輝く春日山に降臨した八大龍王が、釈尊説法の場を現出させる。——

後場に龍神と龍女が登場する華やかな小書(特殊演出)。名手・浅井文義のシテに、ワキ方福王流十六世宗家・福王茂十郎(文化功労者)、地頭は十世片山九郎右衛門。

狂言《酢薑》

薑(山椒の皮)を売る行商人が都へ向かう街道筋でひと休みをしていると、酢を売る行商人が通りかかり、大きな売り声をあげて商売を始めた。それを見ていた薑売が酢売に声をかけて、互いに「秀句」を駆使して由緒を語り、「売物の司(行商人の代表権)」を主張する。——

野村万作(文化功労者・日本芸術院会員・人間国宝)の酢売に、多才に活躍する野村萬斎の薑売。語呂合わせの言葉遊び「秀句」は、さながら父子のラップ対決だ。

能《二人静 立出之一声》

春まだ浅い正月七日(旧暦)、吉野の里の菜摘川のほとり。雪の消え残る野辺で、勝手明神の神主に命じられた女たちが、神事に供える若菜を摘んでいた。そこへ現れた里の女は、判官殿(源義経)に愛された白拍子・静御前の霊だった。菜摘みの女に静御前の霊が取り憑いて、勝手明神の宝蔵に納めてあった静御前の装束を着けて舞い始めると、背後に同じ姿の静御前の霊が現れる。——

小書(特殊演出)により、菜摘女の十世片山九郎右衛門(京都)と静御前の九世観世銕之丞(東京)は、両シテ扱い(両人共にシテ)になる。実に贅沢な競演である。

〔文・石淵文恵〕

入場料金

席種	前売	当日
S席	11,000円	12,000円
A席	9,900円	10,900円
B席	7,700円	8,700円
学生(B席)	5,500円	6,500円
U-25 25歳以下(B席)	席数限定 3,000円	4,000円

※友の会:割引特典あり

チケット発売日

公演	友の会	一般
1/3 春日龍神	10/24	11/1
1/4 二人静	10/25	11/5

※当日券は開演の1時間前より販売

チケットご予約・ご購入

● 大槻能楽堂ホームページ(発売日10:00〜)
https://noh-kyogen.com/ticket/

● 大槻能楽堂 事務局(11:00〜16:00 不定休)
TEL 06-6761-8055

会場 大槻能楽堂

大阪市中央区上町A番7号

●大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、
⑩号出口を出て南へ約300m。
(⑪号出口にエレベーター有)
または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、
⑦号出口を出て北へ約350m。
(⑦号出口にエレベーター有)

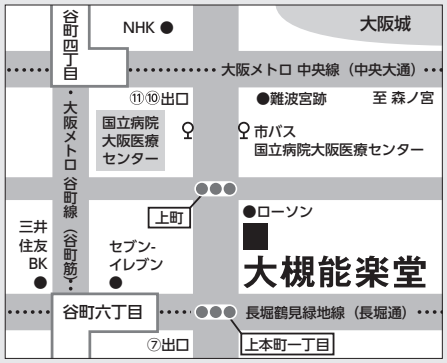
●市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、
「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。

令和6年度 大槻能楽堂自主公演能
音声による演目解説(日英)

能一番 100円 能(狂言も含む)二番以上 200円

本日の演目がもっと詳しく分かる、「音声による上演前の解説(日英)」をご用意しました。開演前、休憩中にぜひご利用ください。

※上演中はご利用いただけません。



※駐車場・駐輪場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいますよう、お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。